大熊町社会教育複合施設

基本設計書

令和6年9月
大熊町

1. 建築計画

1-1　概要

はじめに

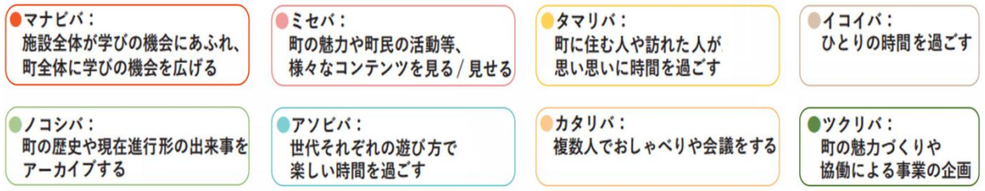
大熊町社会教育複合施設基本構想では、居住地や住民票の有無にかかわらず大熊に関わるすべて人々を施設利用者と捉えている。また、博物館・図書館・公民館の３施設の単なる合築ではなく、３機能が融合され、人々が集い交わり活動する場となることをめざしている。さらに、人々が大熊を知り、共有し、それぞれの暮らしやまちづくりに活かすことができるように、そして利用者と共に複合施設が大熊の記憶を集め、過去の記憶とともに現在・未来の町民につなげていくために、以下の５つの活動方針が掲げられた。

① 大熊での学びを支える資料や情報を大切にする
② 先人が積み重ねた知識に学び、わたしたちの経験を共有する
③ 他人を尊重し、仲間をつくる
④ わたしたちの生活や暮らす地域を豊かにするための一歩を踏み出す
⑤ 一人でいても誰かと一緒でもいい、みんなの居場所をつくる

1-1-1図　５つの活動方針｜基本構想より

基本計画｜８つのバ

基本計画では、期間中に実施された３回のワークショップの成果も踏まえ、図書館・博物館・公民館の諸機能や人々の活動を８つのバ（マナビバ、ツクリバ、ノコシバ、ミセバ、タマリバ、イコイバ、カタリバ、アソビバ）に整理した。 これら８つのバは、単独でも機能するが、お互いに連動することでいろいろな相乗効果を生み出す。また、８つのバは、集会室や会議室などの固定的な「室」に紐づくものではなく、施設の内・外、いろいろな場所で同時多発的かつ相互誘発的に発生するものである。基本計画書では、特定の機能に拠らない余白の空間を「大小の自由な居場所」と呼んでいた。



1-1-2図　8つのバ｜基本計画より

基本設計｜余白

基本設計では、この８つのバが展開する多様性と偶然性に溢れる「大小の自由な居場所」をあらためて「余白」とし、関係者と協議を繰り返し、余白と余白以外の場所との関係やそれらの大きさや配置などの検討を重ねてきた。また、期間中に実施した２回のワークショップを経て、参加者と共に「余白」の具体的な空間利用のイメージを想像し、かたちにした。

それらを通じ重要な課題も見えてきた。それは《施設の使い方・使われ方》を明確化、具体化することである。大熊に関わるすべての人々を利用者とする、博物館・図書館・公民館の３機能を融合する、この２つの大きな目標の実現をめざし、いろいろな使い方を誘導し、いろいろな使われ方を支えるために、

①情報の集積や整理など、情報環境とアーカイブのデザイン
②家具や什器、展示や情報発信などユーザー体験のデザイン
③大熊の未来を牽引するコミュニティを生み、育む、企画・運営体制のデザイン

この３つのデザインについて、今後の実施設計や施工期間を通じてより深い検討が必要であろう。それらは開館後も、検証と更新を継続していくべきものと考えられよう。

1-1-3図　外観パース

1-1-4図　内観パース

1-2　敷地周辺状況

建築概要

名称：大熊町社会教育複合施設

計画地：福島県双葉郡大熊町下野上大野803-1

用途：図書館・博物館・公民館

面積規模構造：5985.536㎡(PH階、屋外物置を含む)　RC造　一部S造　地上２階建

1F面積表

室名	面積(㎡)	備考
活動室　会議・座学	69.161	
事務室1	26.675	
常設展示室	148.739	
図書館1	838.736	
図書館2	84.068	
	57.323	
サイレントルーム	51.134	
倉庫D	50.295	
和室	66.508	
資料閲覧室	50.635	
更衣室	27.339	
閉架書庫	100.405	
倉庫1	6.350	
倉庫2	2.400	
倉庫3	8.258	
書庫	42.347	
作業室B	47.916	
キッズコーナー	70.147	
	44.092	
お話しの部屋	11.310	
ガス消火ボンベ室	67.740	
消防設備室	34.098	
受水槽室	43.630	
空調機械室	220.666	
共用部		
風除室1	7.834	
エントランス	137.791	
余白１	100.496	
余白2	56.965	
余白3	78.934	
余白4	87.145	
余白5	39.306	
余白6	101.976	
トイレ1	44.313	
多目的トイレ	4.827	
LBGTQトイレ	2.742	
SK	2.285	
子供用トイレ	1.613	
授乳室	1.613	
廊下	17.803	
	12.088	
EV1	5.280	
EV2	5.875	
EVホール	8.063	
階段4	12.432	
階段ホール	16.800	
EPS1-1	7.415	
EPS1-2	8.002	
EPS1-3	8.392	
PS1-1	2.828	
PS1-2	2.456	
PS1-3	3.528	
DS1-1	6.098	
DS1-2	4.208	
DS	3.556	
ポーチ	19.786	屋外
	2982.422	

2F面積表

室名	面積(㎡)	備考
倉庫	22.295	
ピアノ庫	19.401	
活動室　座学	49.225	
コモンダイニング	52.717	
コモンキッチン	25.222	
企画展示室	91.858	
事務室2	95.542	
搬入駐車場	57.624	
荷解場	29.179	
作業室A	38.640	
展示準備室	39.187	
一時保管庫	209.732	
前室兼撮影室	48.754	
特別収蔵庫	151.004	
一般収蔵庫	538.820	
給湯室	5.707	
休憩室A	29.362	
印刷室	20.683	
活動室　工作系	75.689	
共用部		
余白7	143.719	
	15.113	
余白8	60.796	
廊下	34.831	
余白9	49.968	
余白10	141.185	
余白11	43.187	
余白12	79.113	
予約本	23.049	
団体用ロッカー	29.897	
風除室2	10.395	
EV1	5.280	
EV2	5.875	
EVホール	6.909	
階段4	13.208	
階段ホール	21.318	
物置	12.432	
階段1	13.933	
階段2	12.145	
階段3	14.434	
トイレ2	38.248	
授乳室2	4.212	
廊下	15.139	
通路(ドーム内)	66.975	
ドーム	288.367	
EPS2-1	8.898	
EPS2-2	8.468	
EPS2-3	7.571	
DS2-1	9.743	
DS2-2	15.131	
DS2-3	2.400	
DS2-4	22.549	
PS2-1	2.064	
PS2-2	2.456	
PS2-3、EPS2-4	7.328	
PS2-4	4.775	
アラーム室	9.728	
作業テラス	62.597	屋外
ポーチ	13.627	屋外
思いやり駐車場	56.707	屋外
	2984.411	

RF階面積表

室名	番号	面積(㎡)	備考
階段4	60	16.230	
	合計	16.230	

本体棟延床面積表

階数	面積(㎡)	備考
1F	2982.422	
2F	2984.411	
RF	16.230	
延床面積合計	5983.063	
本体棟建築面積	3941.000	

別棟

番号	面積(㎡)	備考
61	2.473	屋外物置
合計	2.473	
建築面積	2.990	

延床面積

	面積(㎡)	備考
本体棟	5983.063	
別棟	2.473	
合計	5985.536	

建築面積

	面積(㎡)	備考
本体棟	3941.000	
別棟	2.990	
合計	3943.990	

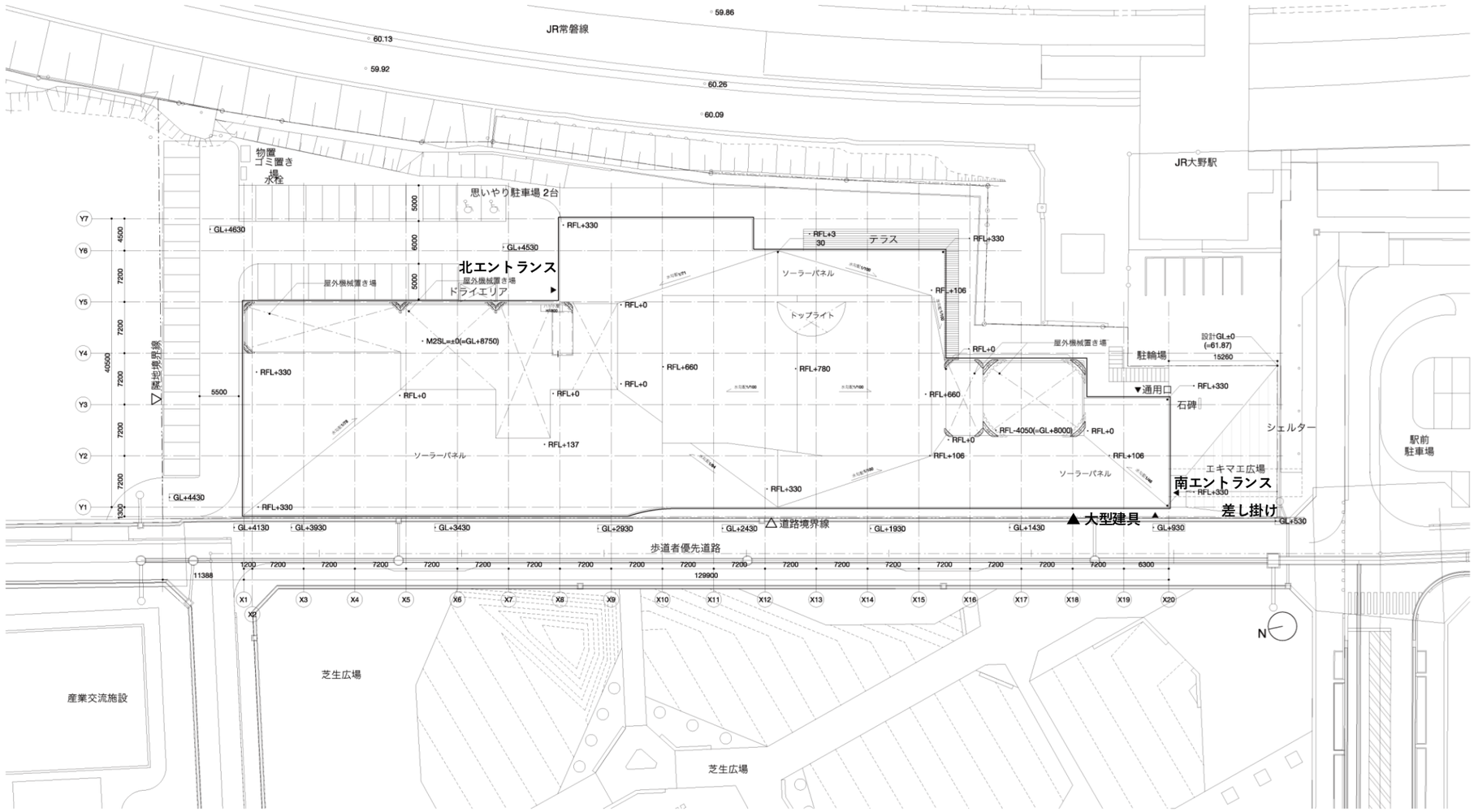
1-1-5表　主な各室面積

1-2-1図　案内図

1-3　配置図

建物は、南北に長い計画地の形状に合わせて南北に長い外形となる。東側に走るJR常磐線に配慮し、できるだけ西に寄せて配置する。車のアクセスを考慮し、駐車場は北側に集約する。一方、駐輪場は大野駅に近い南側に配置する。大野駅前広場に整備されるシェルターと、計画地内のエキマエ広場に設置予定の差し掛けを利用し、雨に濡れることなく大野駅から施設にアクセス可能とする。

エントランスは、利用者の利便性と管理者の管理しやすさとを鑑み、駐車場に近くおもやり駐車場も併設された北側と、大野駅に近くエキマエ広場や芝生広場に面した南側の２ヶ所に集約する。芝生広場に面し、イベント時のみ開放し、広場と１階エントランスホールをつなげることのできる大型建具の設置も検討する。

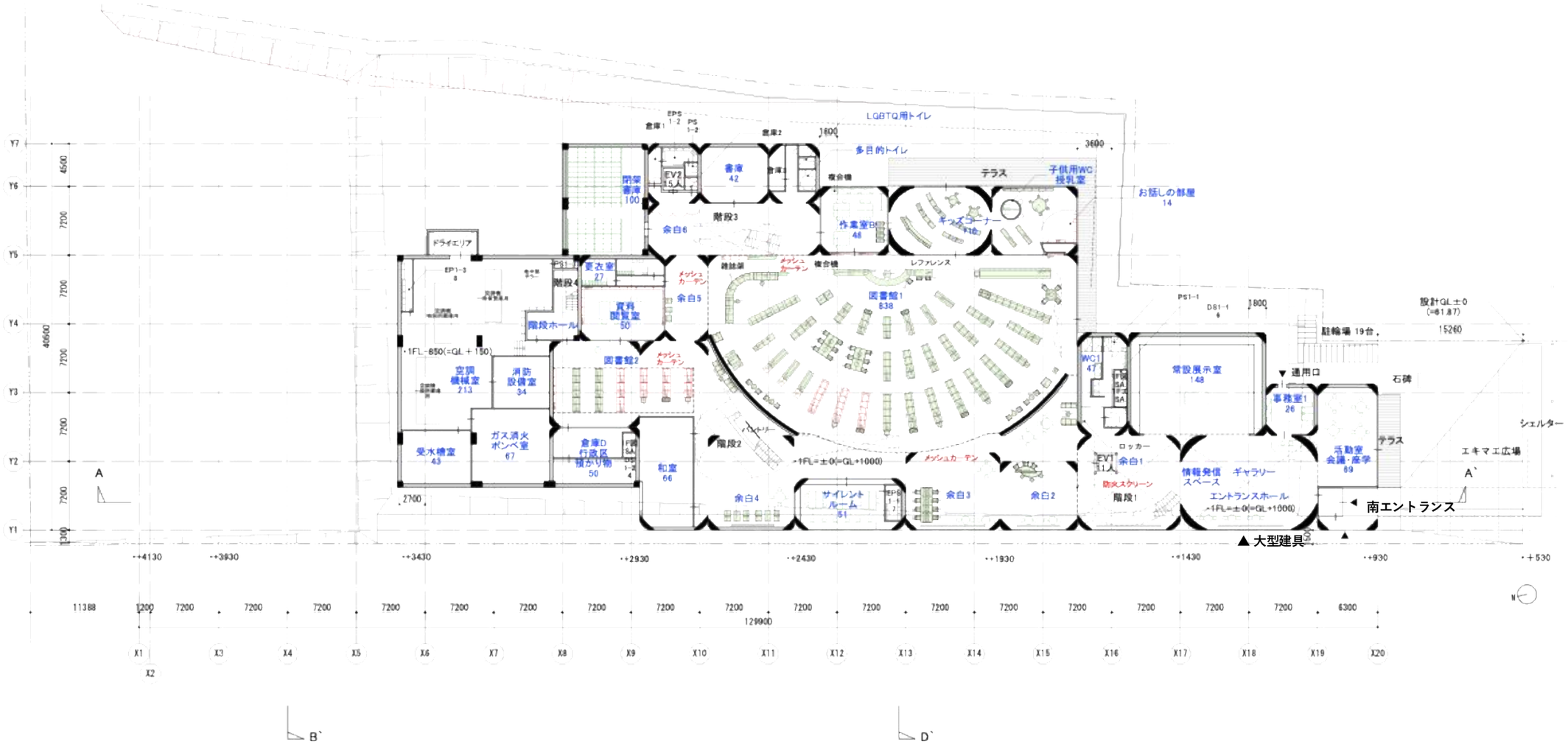


1-3-1図　配置図

1-4　平面計画

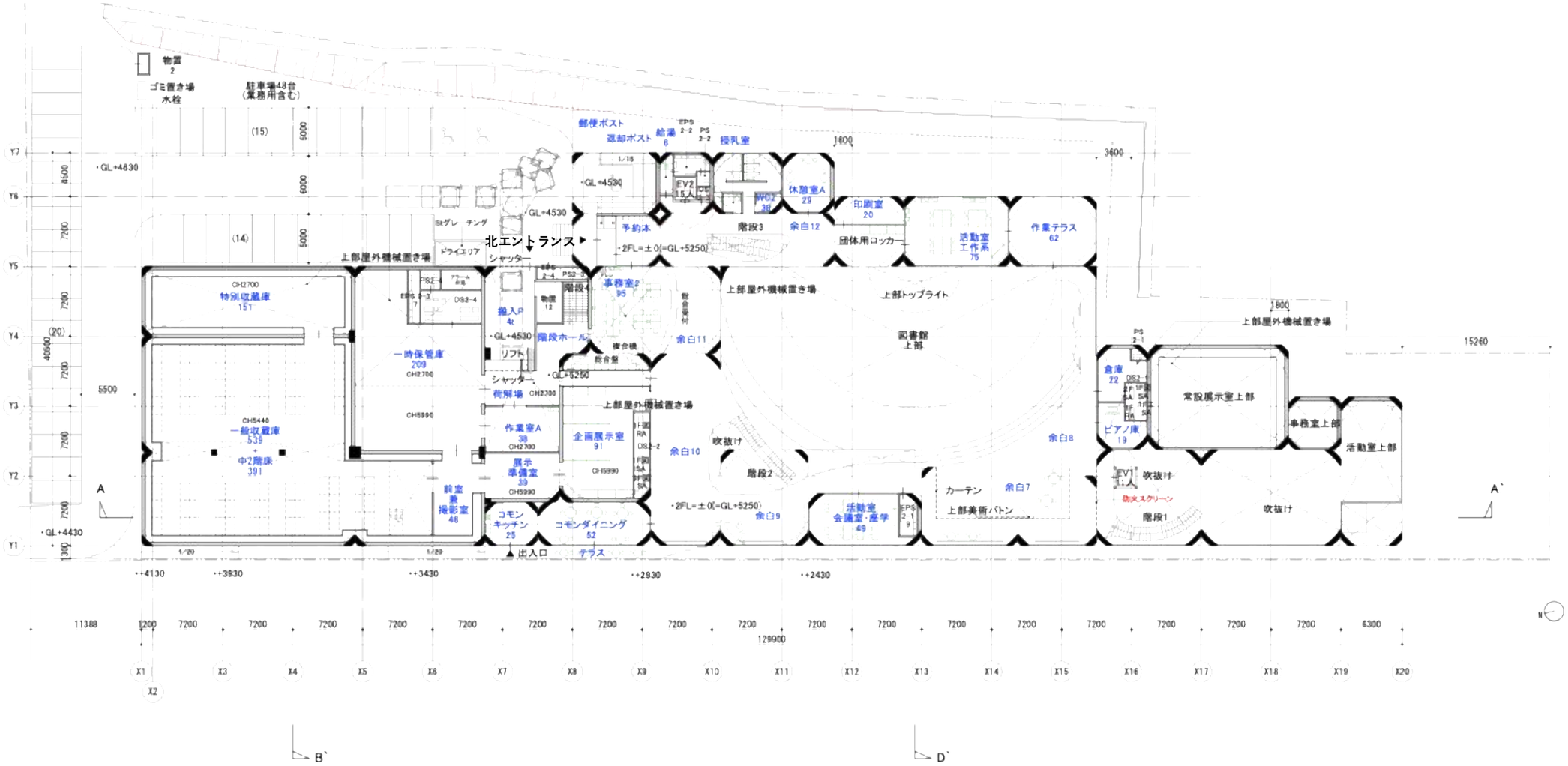
計画地は、北から南に向かって穏やかに下がる傾斜地である。そのため駐車場に近い北エントランスと大野駅に近い南エントランスとのあいだには約４mの高低差が生じている。よって、高い方の北エントランスは２階に、低い方の南エントランスは１階に、それぞれ配置される。主な図書館機能は１階中央に配置し、南北２つのエントランスから等距離とした。

南エントランスホールは、ギャラリー・情報発信スペースを含み、大野駅に最も近い公共スペースとして、隣接する常設展示室とともに大熊町の入口としてのインフォメーション機能を有す。「吉田家」は、その展示・活用方法の検討を重ねた結果、復元は行わず施設内に和室を設けることで機能を担保する。１階北側の地下もしくは半地下になる部分に機械室を設ける。



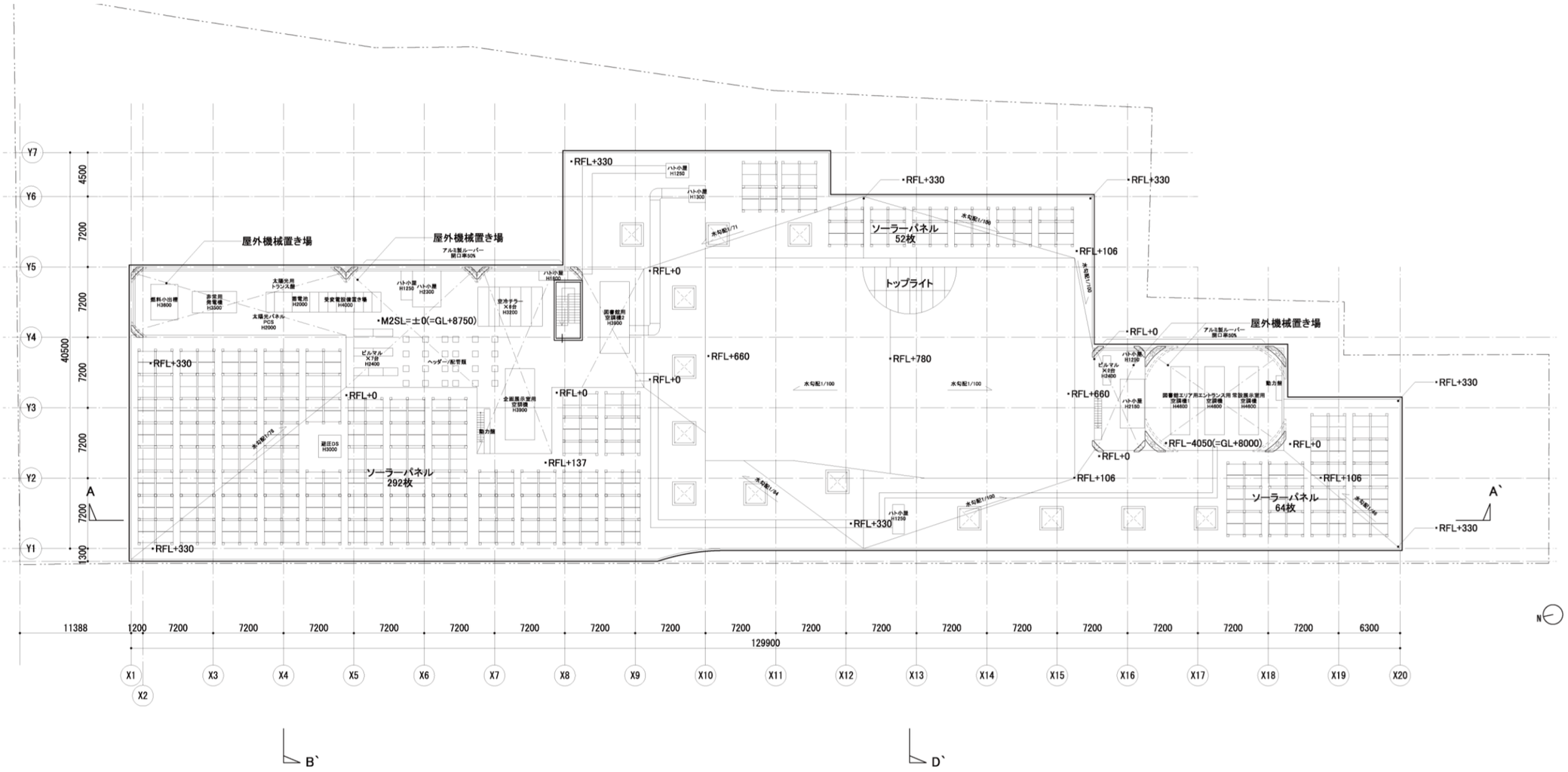
1-4-1図　1階平面図

2階の北エントランスに隣接して搬出入口を設け、収蔵機能は２階に集約させる。収蔵庫は、大小いくつかの部屋に分け、収蔵物に応じた仕様や空気質の最適化を図る。北エントランスに隣接して事務室・総合受付カウンターを設ける。そこを起点に図書館の吹き抜けを見下ろす回遊動線を設け、「余白」と企画展示室・各活動室などの諸室を交互に配置する。 1階・2階とも、この「余白」と諸室の交互配置により、諸室での活動が「余白」に染み出し、「余白」でのいろいろな活動に来訪者が触れる機会が増え、各諸室の活動がお互いに関係を持ち始める。それは本施設がめざす博物館・図書館・公民館３機能の融合や、人々が集い交わり活動する場となること、そして多様性と偶発性に満ちた場となるための契機となろう。



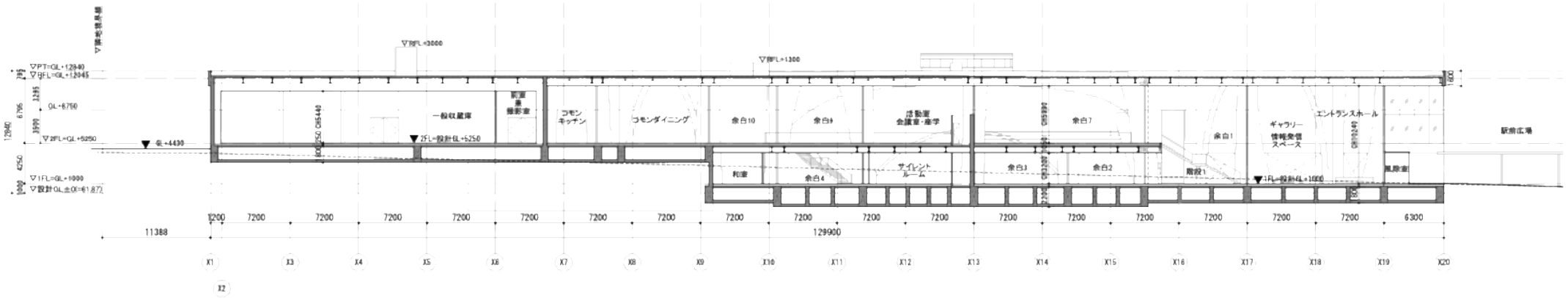
1-4-2図　2階平面図

屋上には太陽光発電パネルを設置し創エネを図る。メンテナンス性に配慮し、電気機械設備、空調機械設備の一部を屋上設置とする。屋上設置の機械・機器類が立面上に現れないように、パラペットや設置床の高さの詳細検討を引き続き行う。



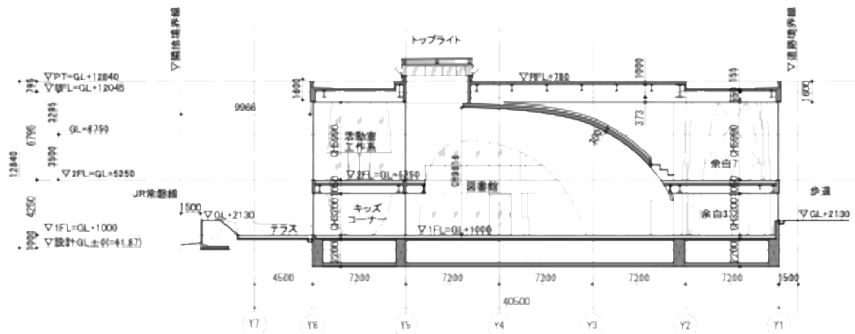
1-4-3図　R階平面図

1-5　断面計画



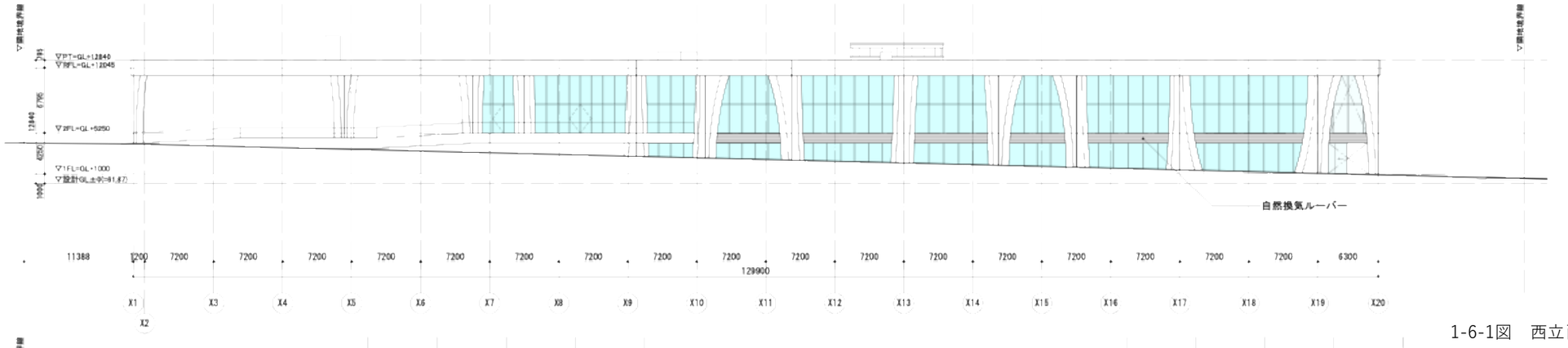
1-5-1図　A-A`断面図

1-5-2図　B-B`断面図

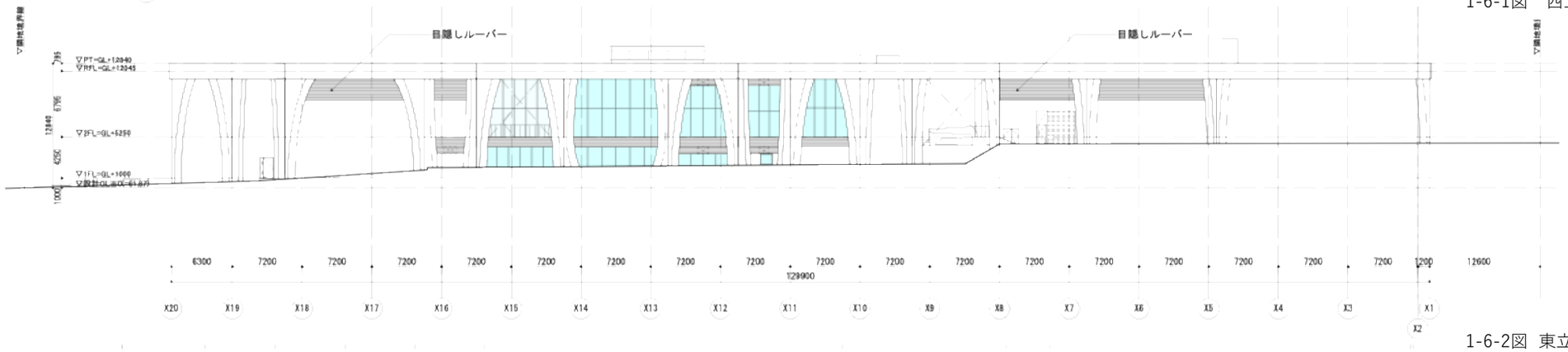


1-5-3図　D-D`断面図

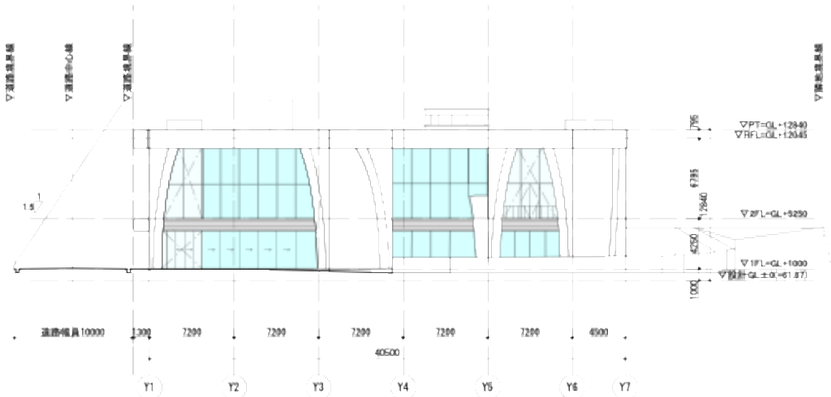
1-6　立面計画



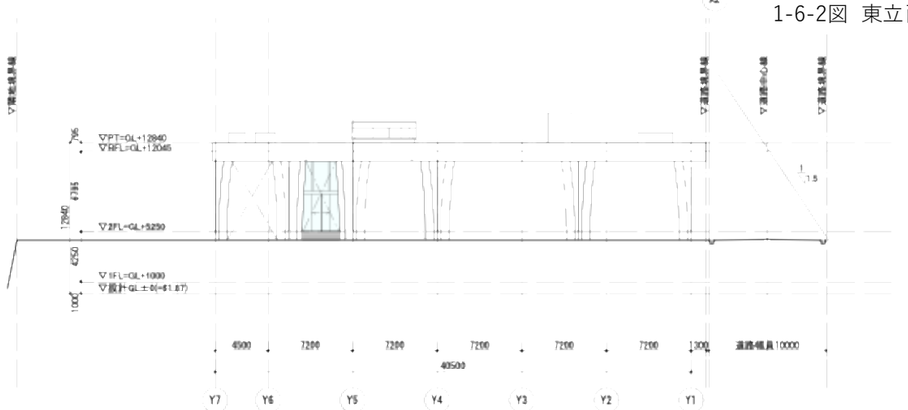
1-6-1図　西立面図



1-6-2図　東立面図

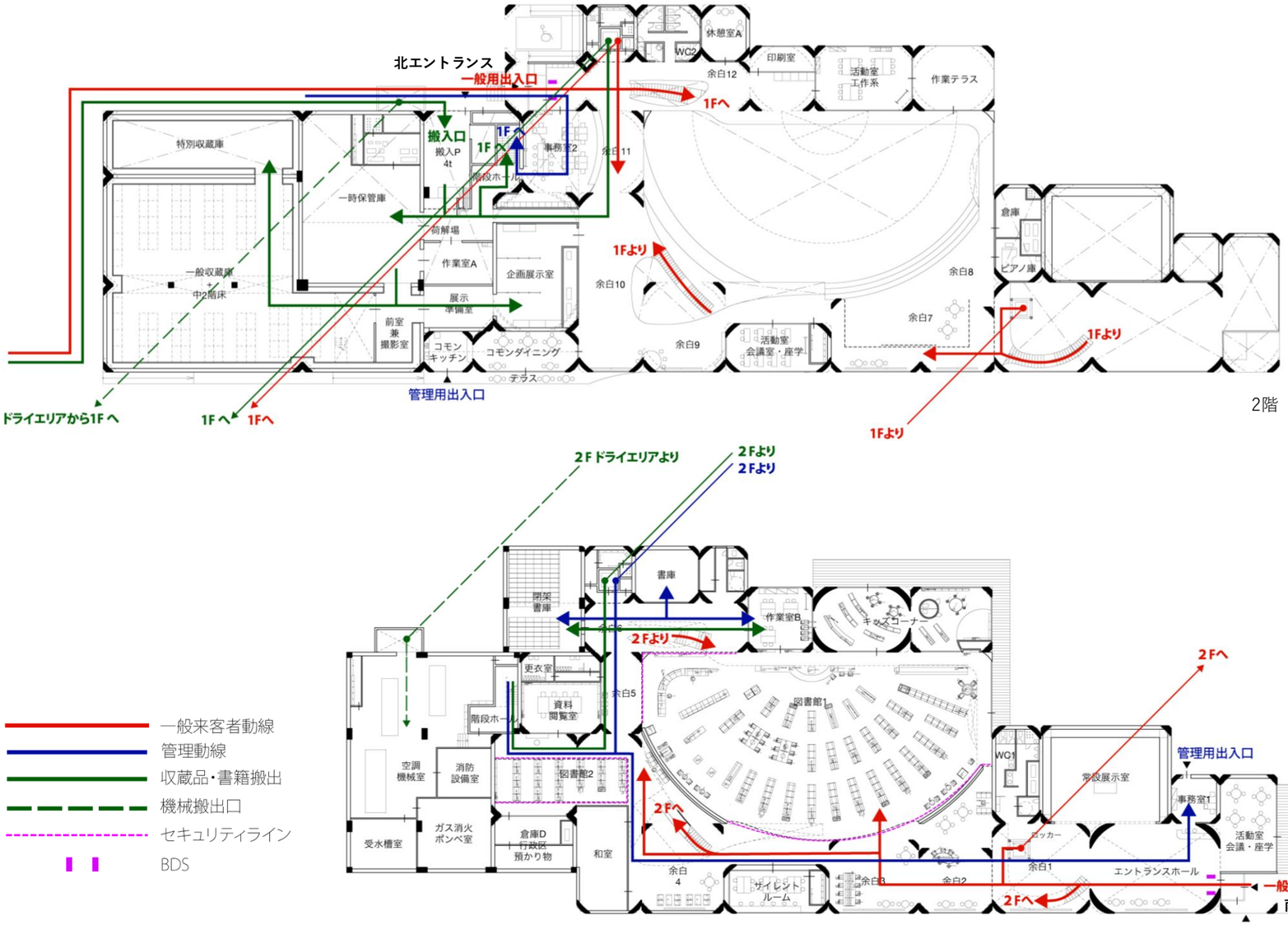


1-6-3図　北立面図



1-6-4図　南立面図

1-7　動線・セキュリティ計画



1-7-1図

上下の階移動は、一般用階段３箇所、エレベーター２本（そのうちの１本は管理用と兼用）、管理用階段１箇所で行う。

夜間や蔵書点検、書架整理などのために図書館機能のみ閉鎖する場合、セキュリティライン（左図ピンク色破線）にメッシュカーテンを用いて柔らかく領域を分ける。

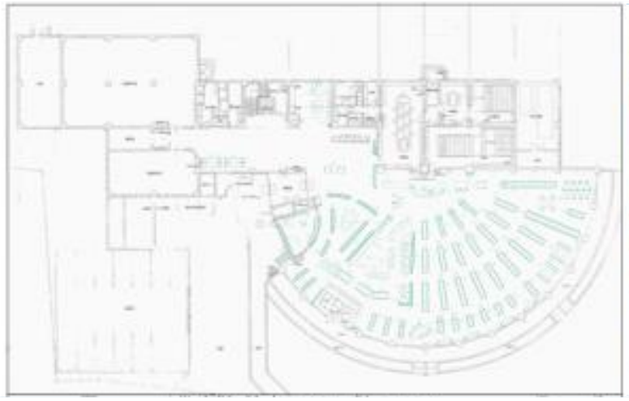
IC タグとBDSを導入する。IC タグ導入により、自動貸出機や予約資料自動受取機など利用者にとって利便性の高いサービスを提供する。BDSを1階南エントランス・2階北エントランス付近に設置することにより、施設内を自由に図書資料を持ち歩き、気に入った居場所で閲覧可能となる。場所に限定されない自由な図書資料の利用は「融合」のコンセプト実現に寄与する。希少本についてのセキュリティは、今後も具体的な検討を続ける。

1-7-2図　メッシュカーテンのイメージ

1-8　家具計画

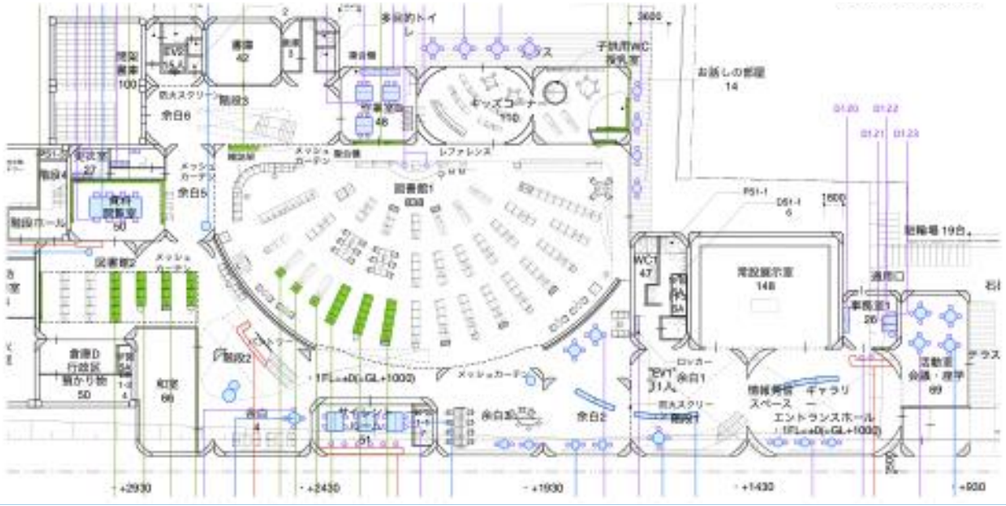
(1)　既存家具と記憶の継承

旧大熊町図書館で使用されていた書架やソファ等の家具は製作メーカーの天童木工により丁寧に修復を行い移設する。レイアウトもできる限り旧図書館のレイアウトに習い放射配置とし、過去の記憶を継承する。新規で製作する家具は移設家具と素材や色調を合わせることで、建物全体としての調和を図る。造作・特注・準既成・既成など意匠上の区分や、建築本体・内装展示・備品などの発注区分など、引き続き整理が必要である。



1-8-1図　旧大熊町図書館　平面図

1-8-2図：既存の天童木工の書架
提供：天童木工



1-8-3図　家具レイアウト図

(2)　セルをつなぐ家具

展示台や本棚の機能を持った什器を1階の情報発信スペースに設置する。緩やかに弧を描くように余白へ展開していくことで来館者を建物内部へ誘導するとともに、「見る」「聞く」「読む」など様々な行為を誘発し、セルを超えて多様な「場」が生まれることをめざす。什器は可動式とし、展示内容やイベントに合わせて複数のレイアウトに柔軟に対応する。

弧を描く家具のイメージ

1-8-4図：信毎メディアガーデン

1-8-5図：茨木市 おにクル
提供：藤森泰司アトリエ

(3)　拠り所となる家具

特徴的な形状の壁からなる隙間や窪みの一部には家具を配置し、複数の拠り所となるような居場所を作り、来館者が自ら居心地の良い居場所を気分やシチュエーションに合わせて選択できるようにする。

建築に寄り添う家具のイメージ

1-8-6図

1-8-7図 ：土佐複合文化施設　つなーで
提供：藤森泰司アトリエ

1-9　照明計画

照明計画の基本方針

積極的な昼光利用を行い、省エネルギーの実現を図りつつ、作業に必要な明るさの確保、来館者に不自由のない明るさの確保と合わせて意匠性を充分に考慮し、施設利用者の快適性の確保を図る。

(1)　照度

空間の連続性や高さなどに応じて推奨照度と照度範囲(照明基準総則JIS Z9110-2010)に準拠した柔軟な照度設定を行い、安全性と快適性の確保を図る。

(2)　色温度

屋内全般の色温度を昼白色(3500K)とし、色の再現性や文字の視認性を維持しつつ、落ち着きを感じられる空間をつくる。

屋外全般の色温度を電球色(2700K~3000K)とし、明る過ぎる印象となることを避け、周辺環境と馴染ませる。

(3)　眩しさ

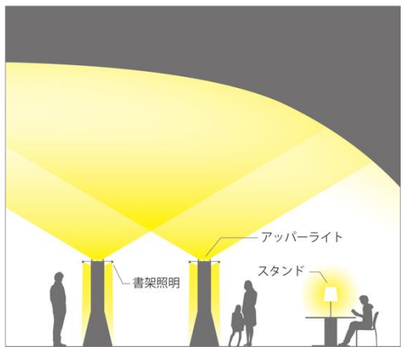
極端な眩しさを感じることのない器具配置をおこなうことで快適性の向上を図る。

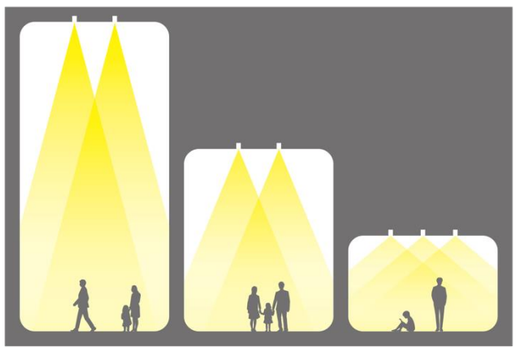
(4)　照明手法

図書館部では書架上部のアッパーライトで天井面を照らし、明るさ感の向上を図り、空間全体の最低限の明るさの確保を行う。あわせて書架照明やスタンドなど低い位置の照明器具を用いて細かい視作業に必要な明るさを確保し、落ち着きのある雰囲気をつくる。

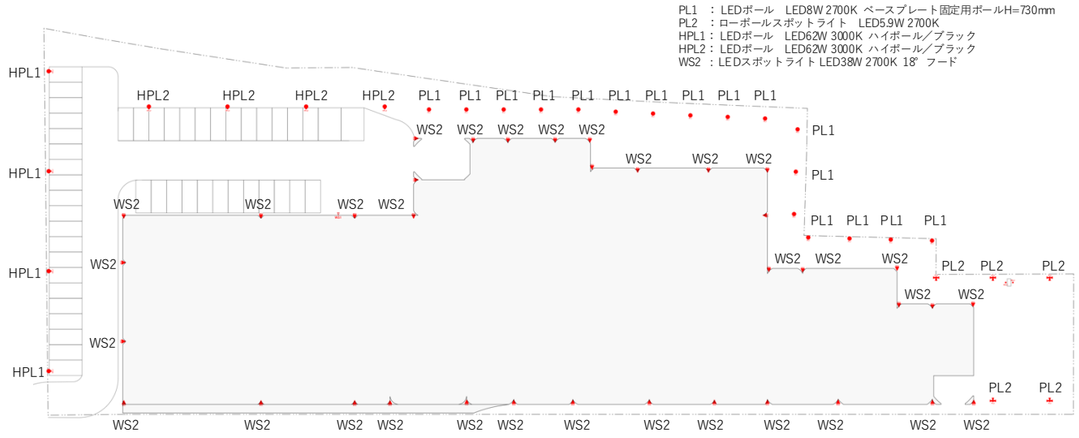
図書館以外の諸室では、主にダウンライトを用いて、空間の要求照度と天井高さに応じた器具選定を行い適切な明るさと快適性の確保を図る。

外構では、夜間の建物周囲の通行に支障が出ないように建物周囲にはポールライトを計画する。また、建物側面付近の地上にアッパーライトを設けることで明るさの確保と建物の演出を図る。外構照明は全て照度センサーによるオン・オフ制御を行うことで省エネルギーを図る。

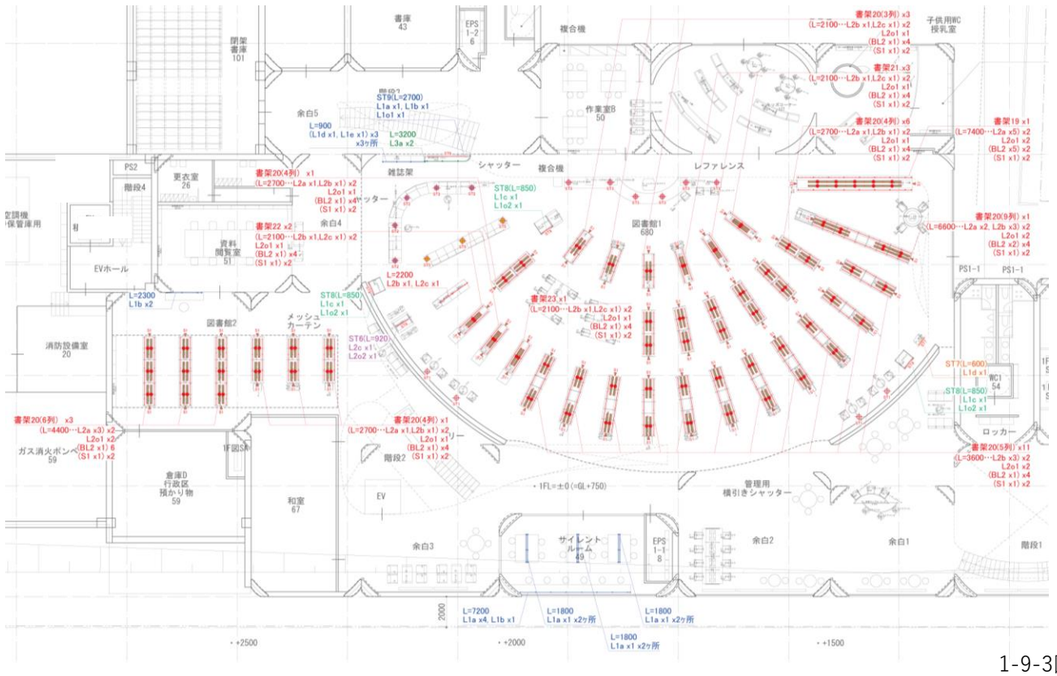




1-9-1図



1-9-2図　外構照明配灯図



1-9-3図

1-10　サイン計画

基本コンセプト

〇特徴的な建築形態に馴染むオリジナリティのあるサイン

〇業務サービスと連動した、機能的でわかりやすいサイン

〇計画地の歴史や文化的な遺伝子を感じさせる意匠デザイン

計画概要

(1)　配置等

・動線計画に基づき、最適な箇所に視認性に優れたサインを配置する。
・総合受付カウンター家具や什器、空間壁面と連携したサインデザイン
・見やすいピクトグラム、サイン・グラフィック＆文字表示
・内容を容易に可変可能なサインシステム
・窓口や室名を呼称表示するだけではなく、記号や数字などによるサイン計画
・情報環境整備計画・内装展示計画と連携し、デジタルサイネージやスマートフォン等のデジタルデバイスを活用する。
・計画地周辺の地域的，文化的な遺伝子を引き継ぐサイン色彩計画
・配置計画は、実施設計期間を通じてより具体的な落とし込みを行う。
・室名は各出入口の扉、もしくは扉脇の壁面に表示

(2)　素材・サイズ等

・表示壁面に有孔ボードを設置し、サイン表示を可変できるように設計する。
・サイン情報に加え、ポスター掲示や資料展示などにも対応する。
・県産木材を積極的に活用する。
・150mm角を基本に表示情報を構成し、情報の重要性のヒエラルキーを明確にする。

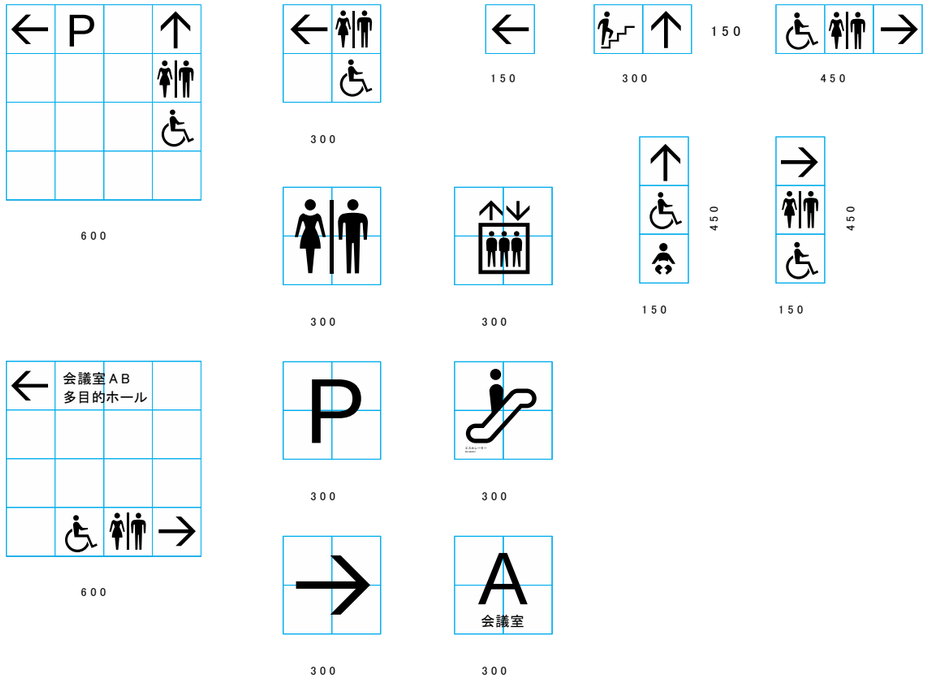
1-11　バリアフリー計画

基本コンセプト

〇県の基本方針に則り、大熊町「地域福祉計画」の理念に基づき整備を進める。
〇基本構想、基本計画におけるバリアフリー計画に沿って計画・実施を行う。

本設計書1-7動線・セキュリティ計画 に沿い、施設内部だけでなく外構計画においても、おもいやり駐車場やJR大野駅からのアクセスにも配慮し、すべての施設利用者にとって優しい環境を整える。

1-10-1図　有孔ボードを使ったサイン活用イメージ



1-10-2図　150mm角を基本単位としたサインイメージ

1-12　情報環境整備計画

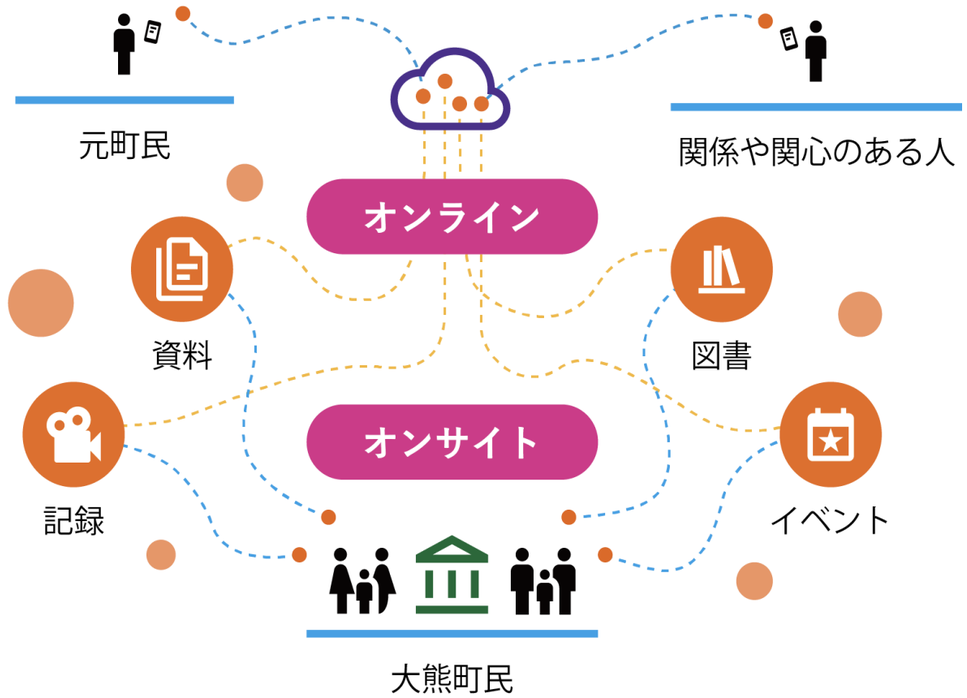
基本方針

震災から十余年を経て、避難指示が解除される区域も徐々に増え、町に人々が戻りはじめている。しかし、いまだ離れた土地で暮らす町民、元町民が多いのが現状である。本施設は大熊町のあらたなランドマークとして、また、文化拠点として計画、建設される。

本施設が提供するあらゆるサービスは、必ずしも大熊町に暮らす人々に限定して提供されるものではない。周辺地域の人々、そして離れた土地で暮らす大熊町に縁のある人たちも同様に対象とする。その実現に向けては、インターネットや最新のデジタル技術を活用し、オンサイトとオンラインのハイブリッドでサービスの利用環境の整備を進める必要がある。

一方、本施設では公民館法、図書館法、博物館法に則り、図書館業務、博物館業務を融合させながら、人々の学びやコミュニティ活動を支援する。歴史や文化に学び、知識や技術を身につけ、人と人の関わりの中から新たな価値を創造する、学びと創造の実現をめざす。そのため、本施設には、地域に関するあらゆる情報を記録し未来に残していくという重要なミッションがある。震災前の地域の様子、震災遺産、そして、現在進行形である復興に向けた歩みなど。扱う資料も、文書、写真、映像、震災の遺物など多岐にわたるであろう。これらは、大熊町にとってだけでなく、社会全体にとって貴重な記録となり得る。記録、整理、保存、そして公開には最新技術を積極的に活用する。目録のデータベース化、高精細映像の記録、3Dスキャンなども含む。こうした業務は専門職員が中心となり、また、コミュニティとの協働的手法も積極的に活用しながら行う必要がある。

今後は、管理運営計画、内装展示計画ともすり合わせながら、「どのような人がどのように利用するのか」を明確にし、より具体的な仕様の落とし込みを行いつつ、建築空間に情報空間を美しく重ね合わせ、地域社会に柔軟かつ確実に実装することをめざす。



1-12-1図　オンラインとオンサイトに跨る情報環境整備イメージ

1-13　雨水排水計画

(1)基本条件

・本排水計画は「小名浜強度式」に基づく。

・雨水流出量（Q）と流下能力（Qp）を算出し、Q≦Qpの判定を行う。

・設計の各条件は下記のとおりとし、実施設計にて検討確定させる。

(2)雨水流出量の算定

1）雨水流出量　Q＝1/360・C・I・AÔ　　Q：雨水流出量（m3/s）

C：流出係数

I：流達時間（ｔ）内の平均降雨強度(mm/h)

A：排水面積（ha)

2）流出係数

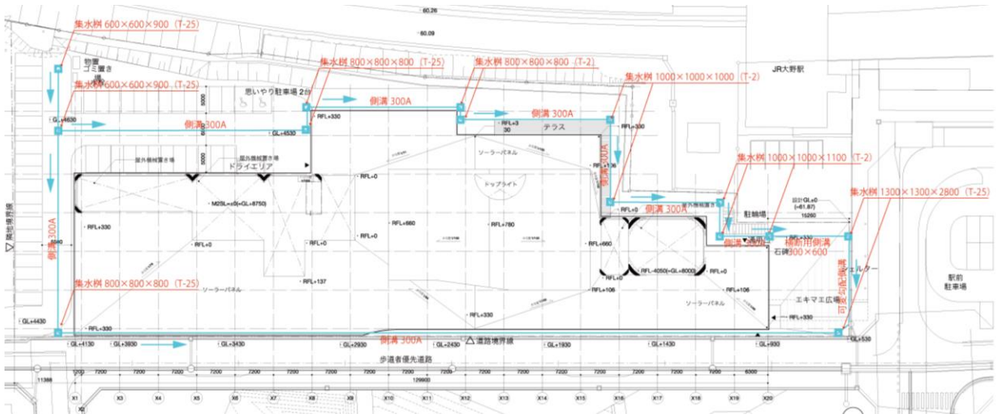
当計画については下表に準じ0.8とする。

土地利用形態	流出係数	土地利用形態	流出係数
池　　等	1.0	水　　田	0.7
密　集　市　街　地	0.9	山　　地	0.7
一　般　市　街　地	0.8	ゴルフ場造成部分	0.8
畑　・　原　野	0.6		

1-13-1表

3）排水計画

1-13-2図



1-14　仕上概要

(1)　外装材の考え方

・外壁面や外構床面などは、耐候性、耐水性、耐久性、防滑性に優れ、経年変化や景観に配慮した材料を採用する。

(2)　内装材の考え方

・図書機能範囲は、歩行音や会話などに配慮して床・天井ともに吸音性のある仕上げとする。

・収蔵庫は、求められる機能に応じて床は防湿・防塵機能、壁・天井は、防湿・調湿材を用いて、収蔵品にとって最適な環境を用意する。

・展示室は、展示替えなどの施工性に優れ、耐久性と美しさを備えた仕上げとする。

・余白や各活動室は、それぞれに求められる機能に応じて、使いやすさ、維持管理のしやすさに配慮した仕上げとする。

・事務室は、将来の改変にも対応しやすいOAフロアを採用し、床仕上げは吸音性に配慮しタイルカーペット敷きとする。

・トイレ等、水を使用する室の床や壁は耐水性、防カビ性、防汚性、防滑性に配慮する。

1-14-1表　外部仕上表

外部仕上表

	仕上	下地	仕上範囲	備考
床	コンクリート刷毛引きの上、浸透性コンクリート表面強化剤	コンクリート	ポーチ スロープ 搬入P　ドライエリア	
	人工木デッキ	コンクリート	テラス 作業テラス	

	仕上	下地	仕上範囲	備考
壁	フッ素樹脂クリア塗装	コンクリート打放し	RC外壁面	-

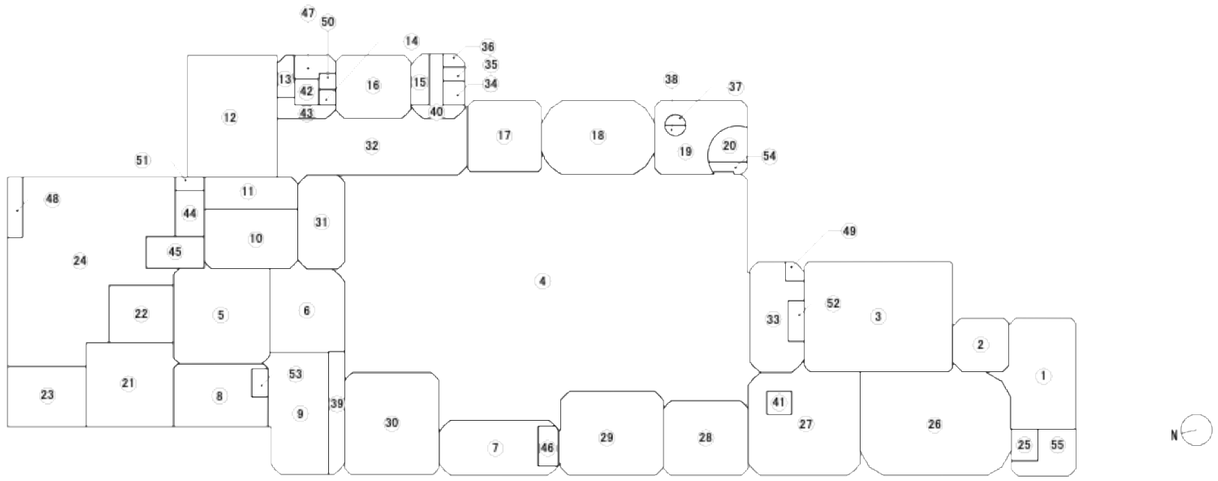
	仕上	下地	仕上範囲	備考
天井軒天	ケイ酸カルシウム板、NAD塗装	LGS下地(耐風圧対応品)	外部軒天井面	-

	仕上	下地	仕上範囲	備考
屋根	改質アスファルト防水 常温工法	コンクリート金コテ押エ	屋根面	太陽光架台設置システム共

室名	床		巾木		壁		天井			造作・ 廻り縁など	備考
	範囲	仕上げ	範囲	仕上げ	範囲	仕上げ	範囲	仕上げ	天井高さ		
事務室		タイルカーペット 19	ボード面	塩ビ巾木 H40	柱・一般部 柱・一般部 RC面 ボード面	AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5 撥水剤 AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5 AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5+12.5		AEP塗装　石膏ボード(GB-R)t12.5+12.5	2700~ 3200		
図書館		タイルカーペット 19	ボード面	塩ビ巾木 H40	柱・一般部 柱・一般部 RC面	AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5 撥水剤 AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5	ドーム部	吸音左官材 t=● 不燃木毛板 t12	0~4250 3200		
常設展示室		挽板オークフローリング t15 ガラス系塗料	ボード面	塩ビ巾木 H40	柱・一般部 RC面	AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5 AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5		AEP塗装　石膏ボード(GB-R)t12.5+12.5	5990		
企画展示室		挽板オークフローリング t15 ガラス系塗料	ボード面	塩ビ巾木 H40	RC面 ボード面	AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5 AEP塗装 石膏ボード(GB-F) t12.5+12.5		AEP塗装　石膏ボード(GB-R)t12.5+12.5	5990		
資料閲覧室		タイルカーペット 19	ボード面	塩ビ巾木 H40	柱・一般部 RC面 ボード面	撥水剤 AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5 AEP塗装 石膏ボード(GB-F) t12.5+12.5		不燃木毛板 t12	3200		
特別収蔵庫		複層ビニル床シート t2	ボード面	塩ビ巾木 H75	一般部	無機質系中性調湿板 t8		ロックウール系調湿板 t12.5	2700	廻り縁:杉材	壁鉄骨下地補強
一般収蔵庫・前室		複層ビニル床シート t2	ボード面	塩ビ巾木 H75	一般部	無機質系中性調湿板 t8		ロックウール系調湿板 t12.5	5990	廻り縁:杉材	壁鉄骨下地補強
一時保管庫		複層ビニル床シート t2	ボード面	塩ビ巾木 H40	柱・一般部 RC面 ボード面	AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5 AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5 AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5+12.5		AEP塗装　石膏ボード(GB-R)t12.5+12.5	5990 2700		
活動室　工作系		挽板オークフローリング t15 ガラス系塗料	ボード面	塩ビ巾木 H40	柱・一般部 柱・一般部	AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5 撥水剤		ロックウール吸音板 t12.5	5990		
活動室 会議・座学		挽板オークフローリング t15 ガラス系塗料	ボード面	塩ビ巾木 H40	柱・一般部 柱・一般部 ボード面	AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5 撥水剤 AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5+12.5		ロックウール吸音板 t12.5	5990		
キッズコーナー お話しの部屋		タイルカーペット 19	ボード面	塩ビ巾木 H40	柱・一般部 柱・一般部 ボード面	AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5 撥水剤 AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5+12.5		不燃木毛板 t12	3200		
サイレントルーム		タイルカーペット 19	ボード面	塩ビ巾木 H40	柱・一般部 柱・一般部 ボード面	AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5 撥水剤 AEP塗装 石膏ボード(GB-R) t12.5+12.5		化粧GWガラスクロス吸音板 t50/32k	3200		

1-14-2表　内部仕上表

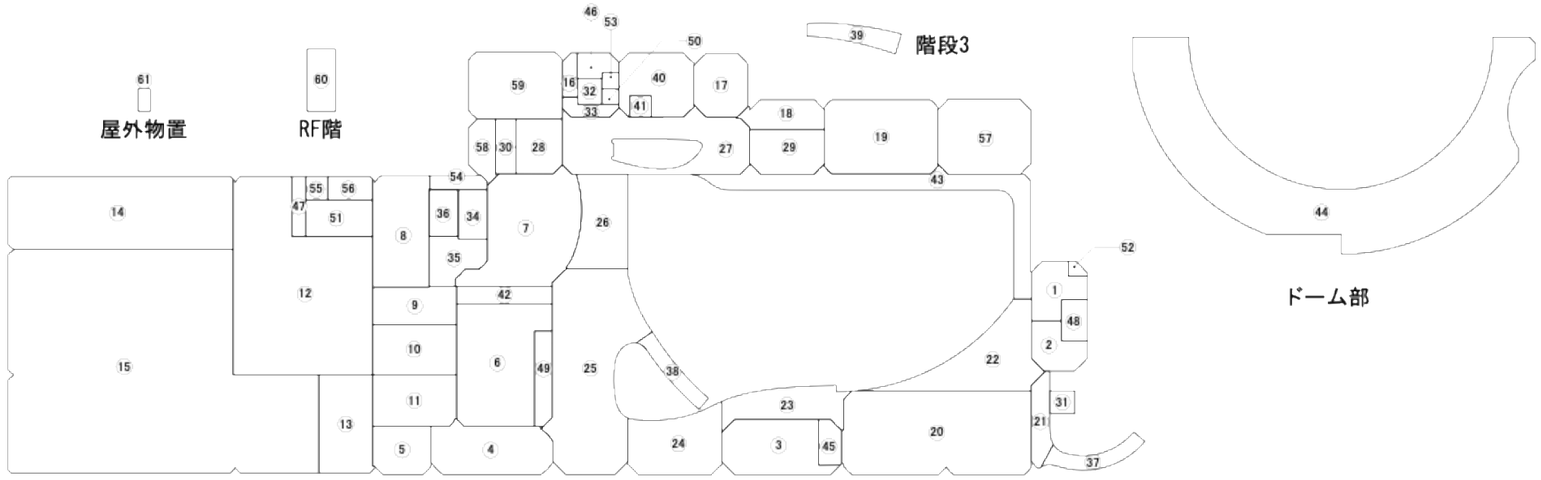
1-15　面積表及び求積図



1-15-1図　1階求積図・面積表

1階面積表

1F面積表 室名	番号	面積(㎡)	備考
活動室　会議･座学	1	69.161	
事務室1	2	26.675	
常設展示室	3	148.739	
図書館1	4	838.736	
図書館2	5	84.068	
	6	57.323	
サイレントルーム	7	51.134	
倉庫D	8	50.295	
和室	9	66.508	
資料閲覧室	10	50.635	
更衣室	11	27.339	
閉架書庫	12	100.405	
倉庫1	13	6.350	
倉庫2	14	2.400	
倉庫3	15	8.258	
書庫	16	42.347	
作業室B	17	47.916	
キッズコーナー	18	70.147	
	19	44.092	
お話しの部屋	20	11.310	
ガス消火ボンベ室	21	67.740	
消防設備室	22	34.098	
受水槽室	23	43.630	
空調機械室	24	220.666	
共用部			
風除室1	25	7.834	
エントランス	26	137.791	
余白1	27	100.496	
余白2	28	56.965	
余白3	29	78.934	
余白4	30	87.145	
余白5	31	39.306	
余白6	32	101.976	
トイレ1	33	44.313	
多目的トイレ	34	4.827	
LBGTQトイレ	35	2.742	
SK	36	2.285	
子供用トイレ	37	1.613	
授乳室	38	1.613	
廊下	39	17.803	
	40	12.088	
EV1	41	5.280	
EV2	42	5.875	
EVホール	43	8.063	
階段4	44	12.432	
階段ホール	45	16.800	
EPS1-1	46	7.415	
EPS1-2	47	8.002	
EPS1-3	48	8.392	
PS1-1	49	2.828	
PS1-2	50	2.456	
PS1-3	51	3.528	
DS1-1	52	6.098	
DS1-2	53	4.208	
DS	54	3.556	
ポーチ	55	19.786	屋外
	合計	2982.422	

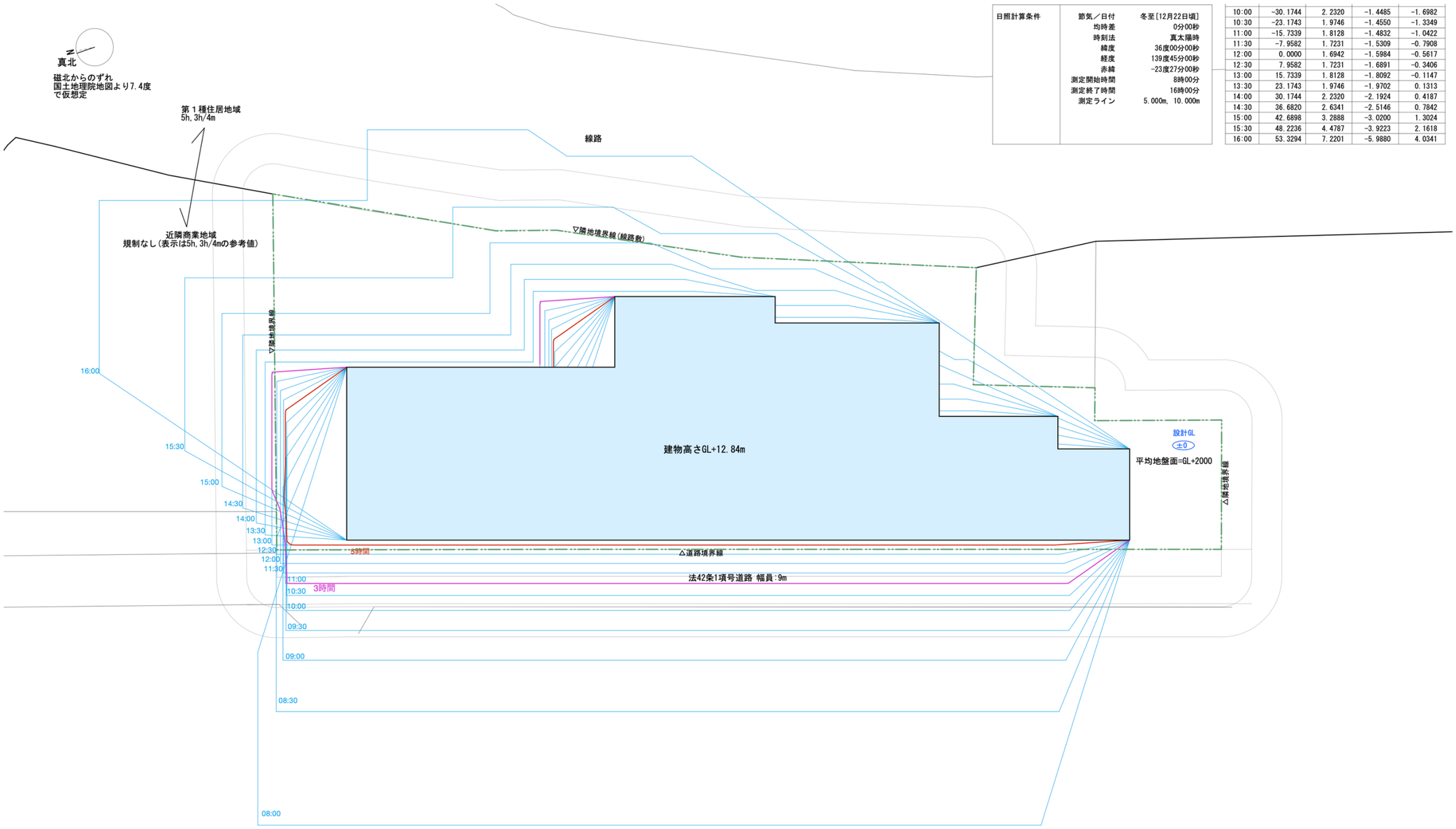


1-15-2図　2階求積図・面積表

2階面積表

2F面積表 室名	番号	面積(㎡)	備考
倉庫	1	22.295	
ピアノ庫	2	19.401	
活動室　座学	3	49.225	
コモンダイニング	4	52.717	
コモンキッチン	5	25.222	
企画展示室	6	91.858	
事務室2	7	95.542	
搬入駐車場	8	57.624	
荷解場	9	29.179	
作業室A	10	38.640	
展示準備室	11	39.187	
一時保管庫	12	209.732	
前室兼撮影室	13	48.754	
特別収蔵庫	14	151.004	
一般収蔵庫	15	538.820	
給湯室	16	5.707	
休憩室A	17	29.362	
印刷室	18	20.683	
活動室　工作系	19	75.689	
共用部			
余白7	20	143.719	
	21	15.113	
余白8	22	60.796	
廊下	23	34.831	
余白9	24	49.968	
余白10	25	141.185	
余白11	26	43.187	
余白12	27	79.113	
予約本	28	23.049	
団体用ロッカー	29	29.897	
風除室2	30	10.395	
EV1	31	5.280	
EV2	32	5.875	
EVホール	33	6.909	
階段4	34	13.208	
階段ホール	35	21.318	
物置	36	12.432	
階段1	37	13.933	
階段2	38	12.145	
階段3	39	14.434	
トイレ2	40	38.248	
授乳室2	41	4.212	
廊下	42	15.139	
通路(ドーム内)	43	66.975	
ドーム	44	288.367	
EPS2-1	45	8.898	
EPS2-2	46	8.468	
EPS2-3	47	7.571	
DS2-1	48	9.743	
DS2-2	49	15.131	
DS2-3	50	2.400	
DS2-4	51	22.549	
PS2-1	52	2.064	
PS2-2	53	2.456	
PS2-3、EPS2-4	54	7.328	
PS2-4	55	4.775	
アラーム室	56	9.728	
作業テラス	57	62.597	屋外
ポーチ	58	13.627	屋外
思いやり駐車場	59	56.707	屋外
	合計	2984.411	

1-16　日影図

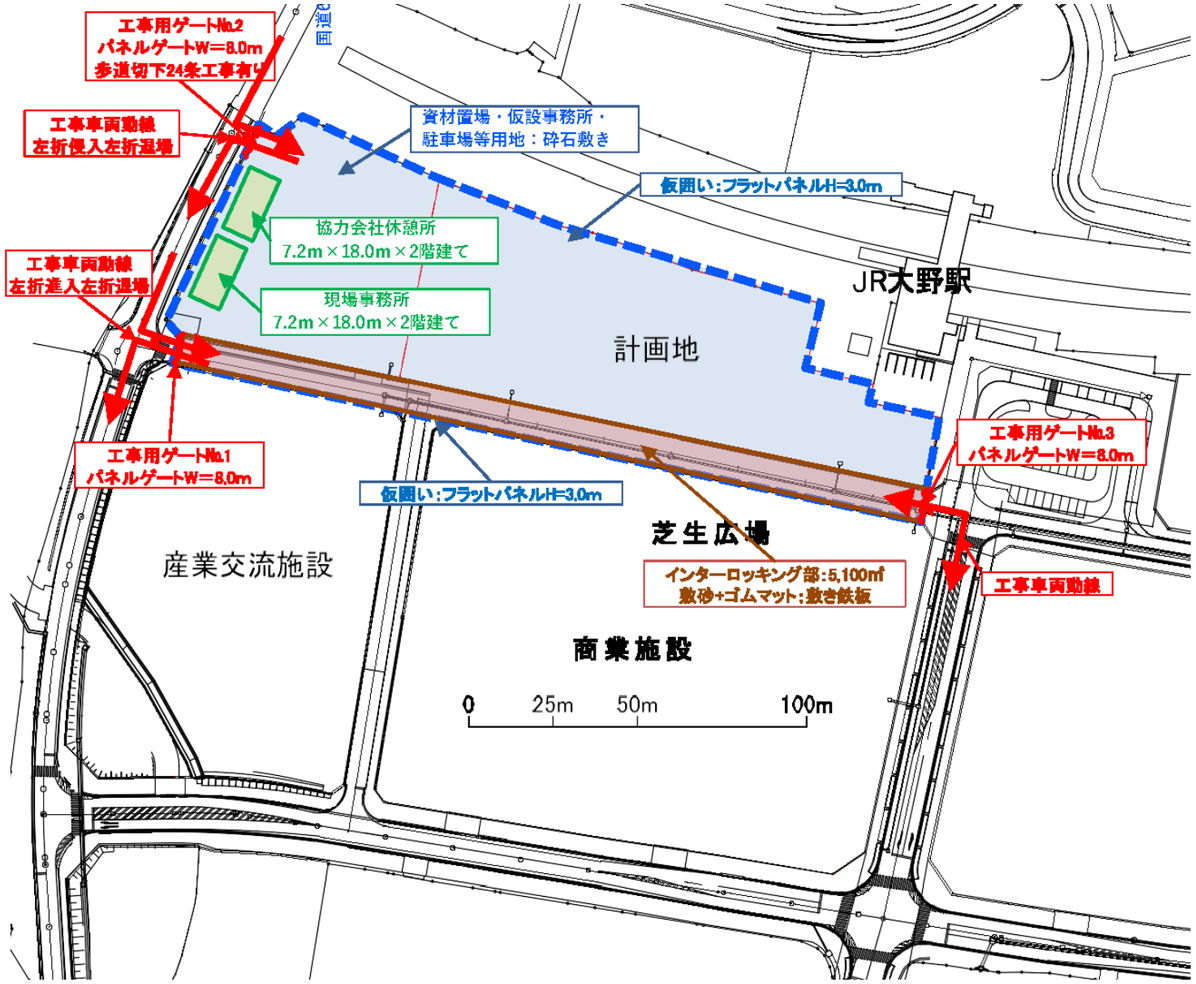


日照計算条件		
	節気／日付	冬至[12月22日頃]
	均時差	0分00秒
	時刻法	真太陽時
	緯度	36度00分00秒
	経度	139度45分00秒
	赤緯	-23度27分00秒
	測定開始時間	8時00分
	測定終了時間	16時00分
	測定ライン	5.000m, 10.000m

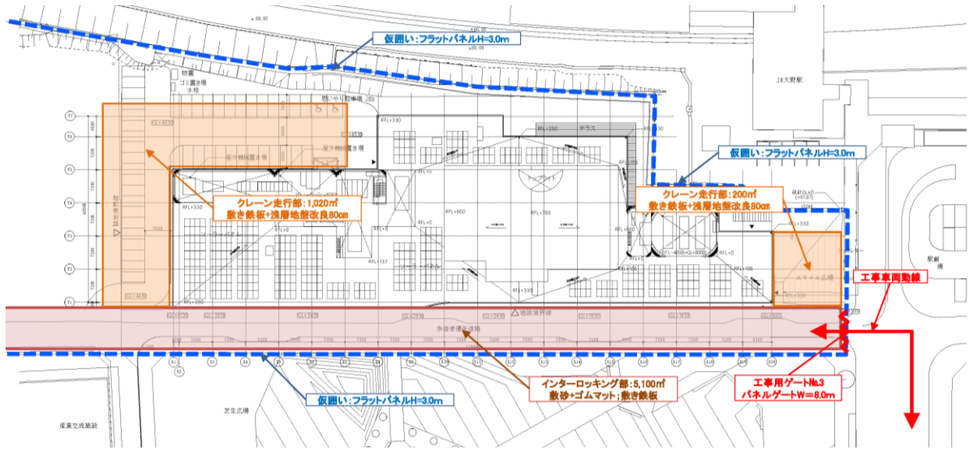
10:00	-30.1744	2.2320	-1.4485	-1.6982
10:30	-23.1743	1.9746	-1.4550	-1.3349
11:00	-15.7339	1.8128	-1.4832	-1.0422
11:30	-7.9582	1.7231	-1.5309	-0.7908
12:00	0.0000	1.6942	-1.5984	-0.5617
12:30	7.9582	1.7231	-1.6891	-0.3406
13:00	15.7339	1.8128	-1.8092	-0.1147
13:30	23.1743	1.9746	-1.9702	0.1313
14:00	30.1744	2.2320	-2.1924	0.4187
14:30	36.6820	2.6341	-2.5146	0.7842
15:00	42.6898	3.2888	-3.0200	1.3024
15:30	48.2236	4.4787	-3.9223	2.1618
16:00	53.3294	7.2201	-5.9880	4.0341

1-16-1図　日影図

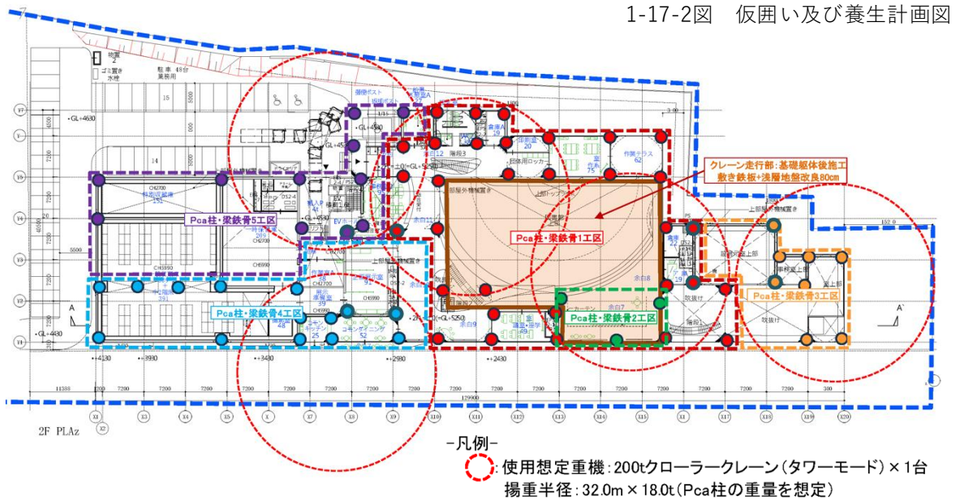
1-17　仮設計画概要



1-17-1図　総合仮設計画図

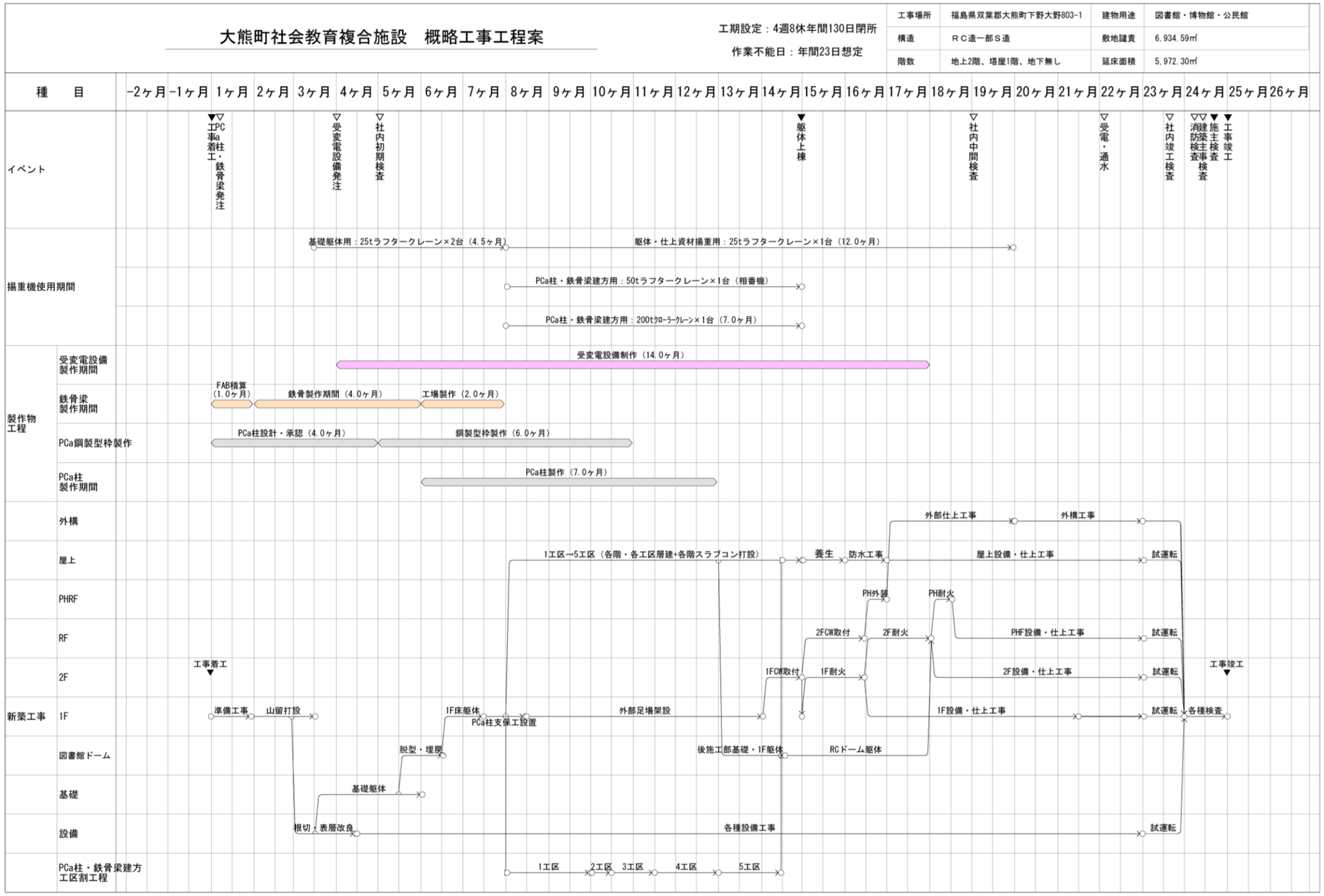


1-17-2図　仮囲い及び養生計画図



1-17-3図　鉄骨梁建方工区割図

1-18　工程計画



1-18-1図　工程計画表